

中筋川総合開発事業(横瀬川ダム)

報告事項

平成 21 年 1 月 26 日

国土交通省 四国地方整備局

再評価の概要

事業の概要	事業名	中筋川総合開発事業(横瀬川ダム)	事業種別	ダム事業
	水系名	渡川水系	河川名	横瀬川
	事業主体	国土交通省	管理者	国土交通省
	市町村名(事業区間)	高知県宿毛市	貯水池延長	1.38km
	事業採択年度	平成2年度		
	事業期間	平成2年度～平成27年度		
	用地着手	平成15年度	工事着手	平成15年度
	再評価実施理由	社会情勢の急激な変化による再評価		
	全体事業費	400億円		
事業の目的				

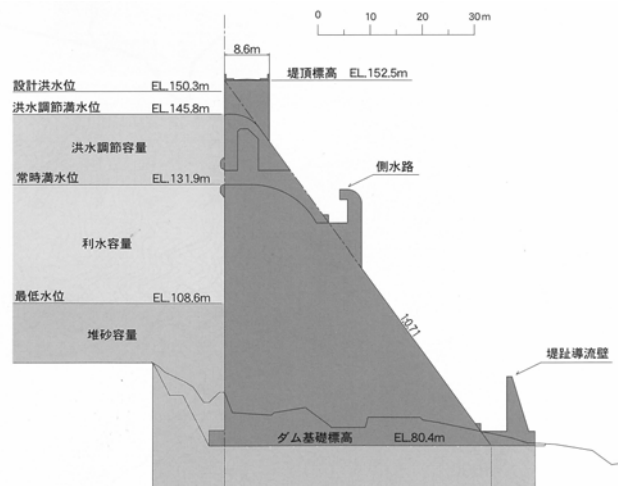
本事業は、渡川水系横瀬川に横瀬川ダムを建設する事業で、洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道用水の供給を目的としている。

- 1) 洪水調節.....既設中筋川ダムと併せて、磯ノ川地点の基本高水流量(1,200m³/s)の内、350m³/sを調節し、河道への配分流量を850m³/sとする。
- 2) 流水の正常な機能の維持...既設中筋川ダムと併せて、磯ノ川地点で「かんがい期:0.74~1.15m³/s、非かんがい期:0.70m³/s」を確保する。
- 3) 水道用水.....西部統合簡易水道事業(四万十市)に対して、1日最大800m³を供給する。

構成施設(全体事業量)

横瀬川ダム諸元
 位置:高知県宿毛市山奈町山E
 形式:重力式コンクリートダム
 堤高:72.1m
 堤頂長:188.5m
 集水面積:11.4km²
 湛水面積:0.4km²

貯水池容量
 洪水調節容量:3,800,000m³
 利水容量:3,200,000m³
 堆砂容量:300,000m³



位置図



再評価の視点

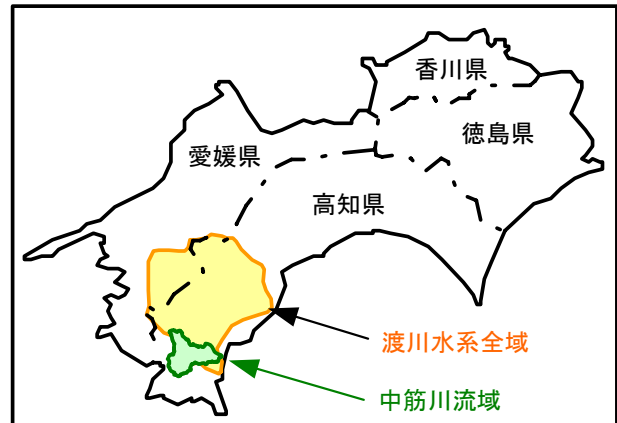
事業の必要性	事業を巡る社会情勢等の変化	災害発生時の影響		横瀬川合流点より下流の中筋川における整備状況において、計画の目標となる降雨(1/100)が発生した場合には、ほぼ全域において2mを超える浸水被害の可能性がある。				
		過去の災害実績		中筋川は河床勾配が緩く、四万十川本川の背水影響を強く受けることから、比較的小規模の洪水でも家屋浸水が起きています。 近年の洪水による家屋浸水は2～3年に1回、農地浸水は毎年のように発生している。				
		発生洪水		浸水面積(ha)	①床上浸水(戸)	②床下浸水(戸)	浸水戸数(①+②)	R56通行止時間
		S47.07	台9	872	185	363	548	22
		S50.08	台5.6	3,216	429	141	570	6
		S52.08	台7	26	1	4	5	-
		S54.09	台16	161	51	135	186	18
		S54.10	台20	6	1	1	2	-
		S55.08	豪雨	458	3	26	29	-
		S55.10	台19	152	0	8	8	-
S57.08	台13	171	0	4	4	2		
S57.09	台19	229	8	52	60	-		
S58.09	台10	79	0	2	2	-		
H1.08	台17	202	3	17	20	11.45'		
H2.10	台21	169	8	21	29	9.45'		
H9.09	台19	225	0	24	24	16.20'		
H15.05	台4	274	2	23	25	15.15'		
H16.08	台10	368	13	48	61	18		
H16.10	台23	433	29	52	81	24		
H17.09	台14	547	19	48	67	25		
H19.07	台4	472	0	2	2	4.55'		
		* S50.08(台5.6)では上記とは別に全壊・流失家屋が8戸、半壊家屋が37戸あった						
		* S54.09(台16)では上記とは別に半壊家屋が4戸あった						
災害発生の危険度		平成16年10月台風23号による洪水では、中筋川ダムの洪水調節によって磯ノ川地点で外水位を約90cm低下させ堤防の決壊を回避出来た。横瀬川ダムが完成すると更に水位低下が可能となる。						
事業の投資効果	地域の状況	地域開発の状況		中筋川流域では交通の整備、公共施設の整備、大規模商業施設の進出等さまざまな開発が進んでいる。				
		交通網	一般国道56号中村宿毛道路(高規格):平成14年9月(間IC～平田IC)の供用開始 土佐くろしお鉄道:平成9年10月(宿毛～中村)					
		公共施設	県立幡多けんみん病院:平成11年3月完成 宿毛市総合運動公園:平成13年10月完成					
事業の投資効果	地域の状況	工業団地	高知西南中核工業団地:平成3年10月分譲完了 県内外21社、1グループ(25社)					
		大規模店舗	具同地区は立地条件が良いことから郊外型大規模店舗の進出が相次いでいる					
		地域の協力体制	横瀬川ダム建設促進期成同盟会等において四万十市及び宿毛市、関係団体等から横瀬川ダムの建設促進と早期完成を要望されている。 水没家屋(8戸)の移転は完了し、平成20年11月末現在で面積比約86%の用地買収が完了しており、漁業補償についても平成20年9月に契約締結済みとなっている。					
事業の投資効果	評価の基となる費用対効果		現在の費用便益比(B/C)=1.46 (評価基準年:H20、評価対象期間:整備完了後50年間) 総費用(C)=437億円 総便益(B)=637億円					
	代替案の可能性検討		横瀬川ダムの代替案として、河積の拡大(堤防の嵩上げ、引き堤、河床掘削)、遊水地、放水路による対策を検討し、経済性、社会的影響、自然環境への影響、利水面等から総合的に評価した結果から本事業を最適と判断している。					
	事業の進捗状況		平成19年度末執行済事業費:111億円(進捗率約28%)					
コスト縮減の方策等		横瀬川ダム建設においては、より効率的なダム建設を行うために「山林保全措置制度」の導入、「側水路減勢方式」の採用、「購入骨材」による建設等の様々なコスト縮減に取り組んでいる。 山林保安措置制度・・・本制度を適用することで付替道路が削減出来ると共に、景観の保全にも寄与する 側水路減勢方式・・・ダム下流部に水平水叩きを設けない特殊な減勢方式で、掘削土量やコンクリート量が削減出来る 購入骨材・・・原石山の開発及び関連施設整備に係る費用を縮減出来ると共に、景観の保全にも寄与する その他・・・今後も施設設計、施工段階において更なるコスト縮減に取り組む						
対応方針		継続						

目次

1. 流域の概要	1
2. 事業の概要	2
3. 事業の必要性	4
3.1 事業を巡る社会情勢等の変化	4
3.1.1 災害発生時の影響	4
3.1.2 過去の災害実績	5
3.1.3 災害発生の危険度	8
3.1.4 地域開発の状況	9
3.1.5 関連事業との整合および地域の協力体制	11
3.2 事業の投資効果	12
3.2.1 費用対効果分析	12
3.2.2 代替案の可能性検討	13
4. 事業の進捗状況と今後のスケジュール	14
5. コスト縮減の方策等	16
5.1 コスト縮減	16
5.2 ダム建設の進捗状況の公表	18
5.3 環境影響評価	18
6. 今後の対応方針(案)	19
7. 中筋川流域委員会での審議結果	20

1.流域の概要

	四万十川	中筋川	横瀬川
流域面積	2,186km ²	144.5km ²	20.3km ²
幹線流路延長	196km	36.4km	15.4km
流域内市町村	四万十市、宿毛市、 宇和島市、四万十町等 3市7町1村	四万十市、宿毛市 三原村	四万十市、宿毛市



中筋川流域図

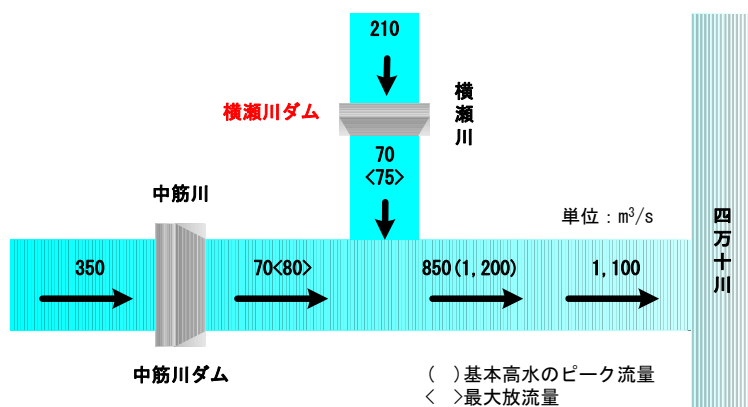
2.事業の概要

横瀬川ダム建設事業は、渡川水系横瀬川に横瀬川ダムを建設する事業で、洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道用水の供給を目的としています。

(1)洪水調節

ダム地点の計画高水流量 $210\text{m}^3/\text{s}$ のうち、 $140\text{m}^3/\text{s}$ の洪水調節を行います。

磯ノ川地点(中筋川基準地点)の基本高水流量 $1,200\text{m}^3/\text{s}$ のうち、 $350\text{m}^3/\text{s}$ を調節し、河道への配分流量を $850\text{m}^3/\text{s}$ としています。



流量配分図

(2)流水の正常な機能の維持

既設中筋川ダムとあわせて、磯ノ川地点でかんがい期 $0.74\sim 1.15\text{m}^3/\text{s}$ 、非かんがい期 $0.70\text{m}^3/\text{s}$ を確保します。

(3) 西部統合簡易水道事業(四万十市)

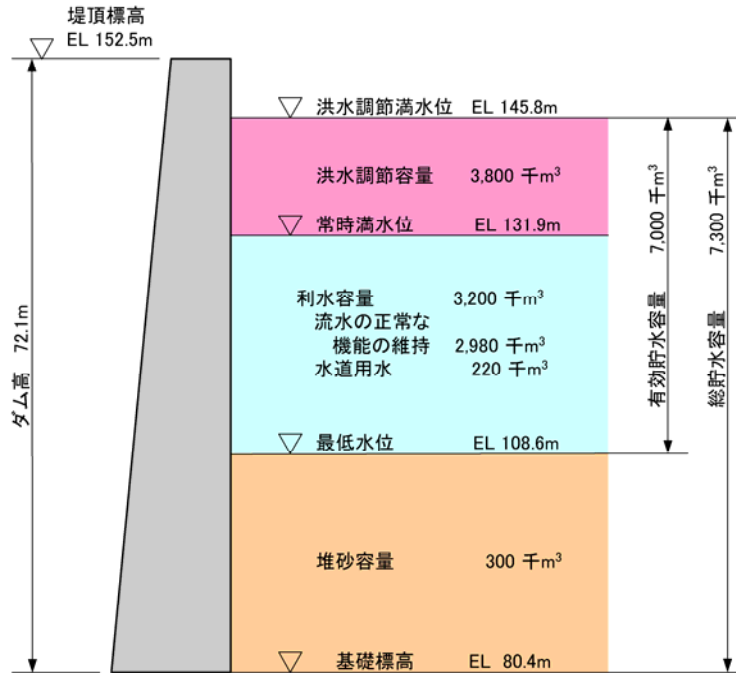
四万十市に対して
1日最大 800m^3 を
供給します。



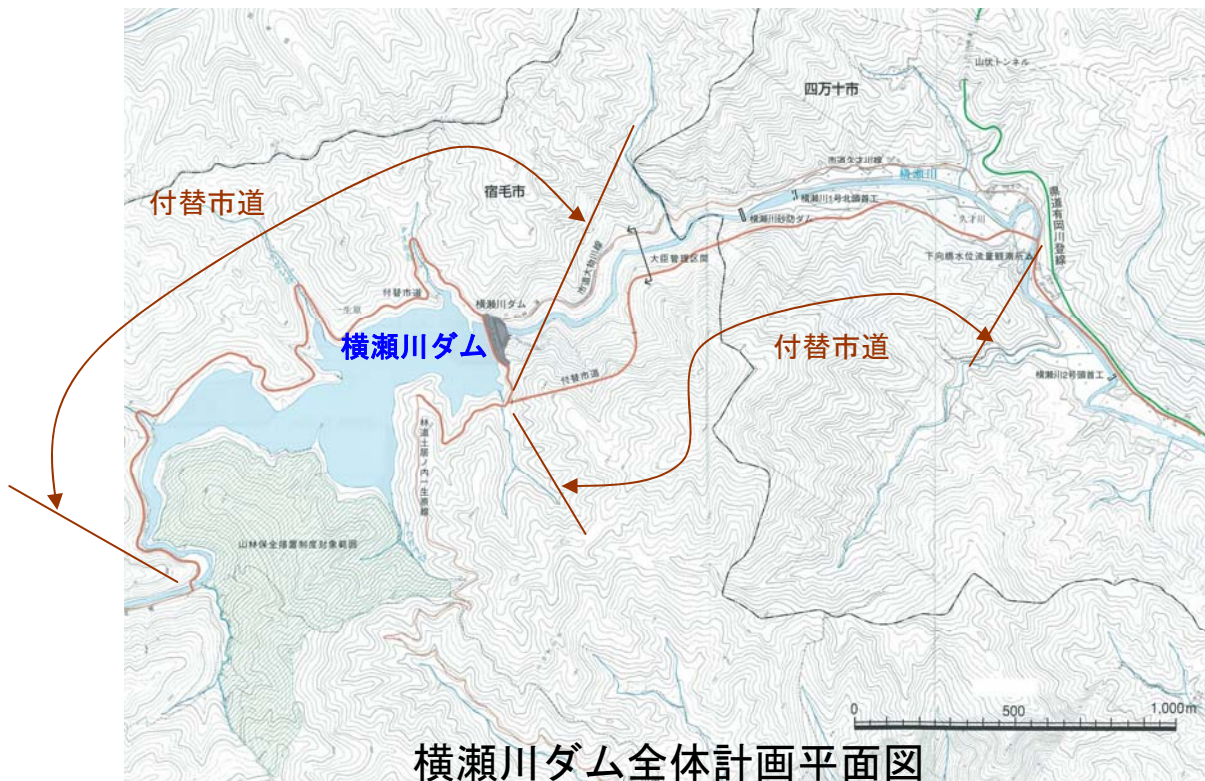
水道供給区域図

横瀬川ダム諸元

ダム	位置 型式 堤高 堤頂長	高知県宿毛市山奈町山田 重力式コンクリートダム 72.1m 188.5m
貯水池	集水面積 湛水面積	11.4km ² 0.4km ²



横瀬川ダム貯水池容量配分図



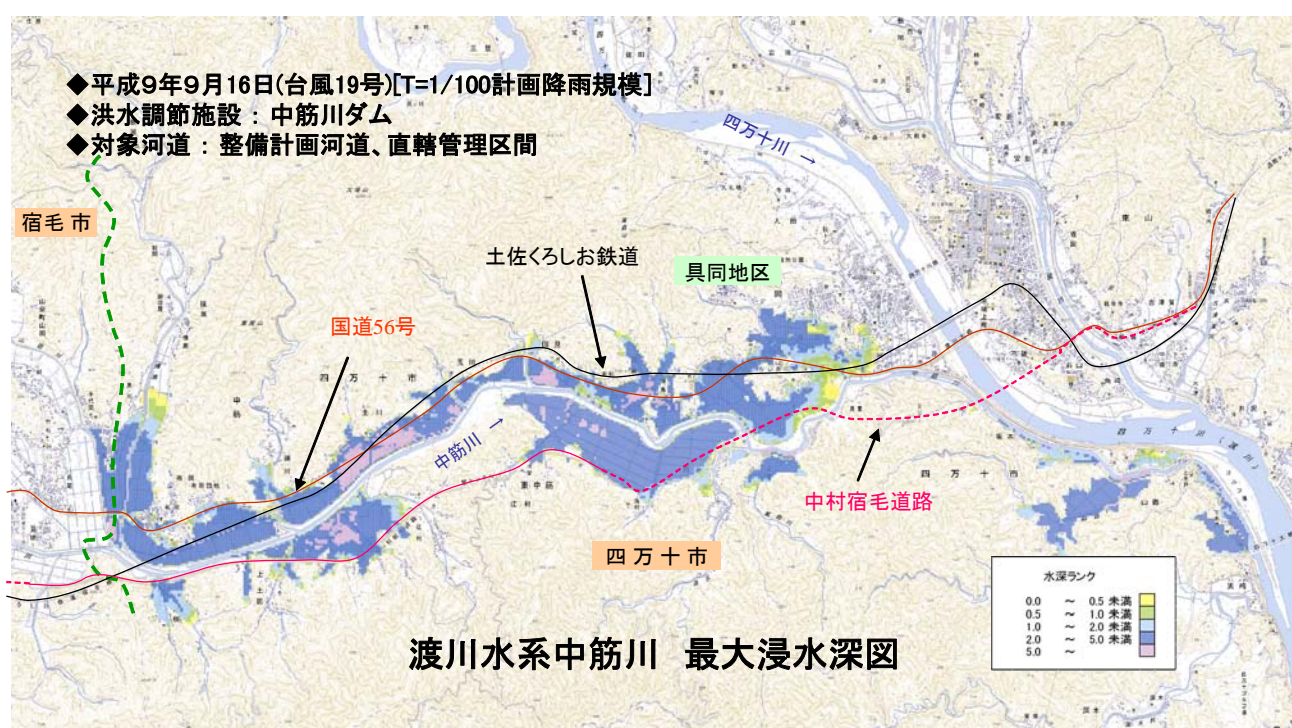
横瀬川ダム全体計画平面図

3.事業の必要性

3.1 事業を巡る社会情勢等の変化

3.1.1 災害発生時の影響

横瀬川および横瀬川合流点より下流の中筋川における整備状況において、計画の目標となる降雨が発生した場合に浸水の恐れがある区域は最大で下図に示すとおりです。



計画規模の洪水が発生すると、ほぼ全域において2mを超える浸水被害の可能性があります。

主要市街地：四万十市、宿毛市

主要交通機関：国道56号、中村宿毛道路、土佐くろしお鉄道

想定氾濫区域内の状況：人口、世帯数、事業所数は整備計画時の資料統計より増加しており、特に具同地区においては大規模店舗が進出している。

3.1.2 過去の災害実績

(1) 洪水被害

中筋川は河床勾配が緩く、四万十川本川の背水の影響を強く受けるとともに比較的小規模の洪水でも家屋浸水被害が起きています。

近年の洪水による家屋浸水は2～3年に1回、農地浸水は毎年のように発生しています。

中筋川における近年の洪水被害状況①

発生洪水	被害状況	国道56号 通行止時間	備考
昭和47年7月 (台風9号)	浸水面積872ha,被災家屋548戸(床上浸水185戸,床下浸水363戸)	22時間	破堤
昭和50年8月 (台風5,6号)	浸水面積3,216ha,被災家屋615戸(全壊・流失8戸,半壊37戸,床上浸水429戸,床下浸水141戸)	6時間	破堤
昭和52年8月 (台風7号)	浸水面積26ha,被災家屋5戸(床上浸水1戸,床下浸水4戸)	-	
昭和54年9月 (台風16号)	浸水面積161ha,被災家屋190戸(半壊4戸,床上浸水51戸,床下浸水135戸)	18時間	
昭和54年10月 (台風20号)	浸水面積6ha,被災家屋2戸(床上浸水1戸,床下浸水1戸)	-	
昭和55年8月 豪雨	浸水面積458ha,被災家屋29戸(床上浸水3戸,床下浸水26戸)	-	
昭和55年10月 (台風19号)	浸水面積152ha,被災家屋8戸(床下浸水8戸)	-	
昭和57年8月 (台風13号)	浸水面積171ha,被災家屋4戸(床下浸水4戸)	2時間	
昭和57年9月 (台風19号)	浸水面積229ha,被災家屋60戸(床上浸水8戸,床下浸水52戸)	-	
昭和58年9月 (台風10号)	浸水面積79ha,被災家屋2戸(床下浸水2戸)	-	
平成元年8月 (台風17号)	浸水面積202ha,被災家屋20戸(床上浸水3戸,床下浸水17戸)	11時間 45分	
平成2年10月 (台風21号)	浸水面積169ha,被災家屋29戸(床上浸水8戸,床下浸水21戸)	9時間 45分	
平成9年9月 (台風19号)	浸水面積225ha,被災家屋24戸(床下浸水24戸)	16時間 20分	
平成15年5月 (台風4号)	浸水面積274ha,被災家屋25戸(床上浸水2戸,床下浸水23戸)	15時間 15分	
平成16年8月 (台風10号)	浸水面積368ha,被災家屋61戸(床上浸水13戸,床下浸水48戸)	18時間	
平成16年10月 (台風23号)	浸水面積433ha,被災家屋81戸(床上浸水29戸,床下浸水52戸)	24時間	
平成17年9月 (台風14号)	浸水面積547ha,被災家屋67戸(床上浸水19戸,床下浸水48戸)	25時間	
平成19年7月 (台風4号)	浸水面積472ha,被災家屋2戸(床下浸水2戸)	4時間 55分	

注1：被害状況については、国道等の冠水もあります。

注2：家屋被害のあった洪水のみで、農地浸水被害のみの洪水は除く。

【出典(被災状況について)：水害統計(H9以前)、高水速報及び市よりの聞き込み(H15以降)】

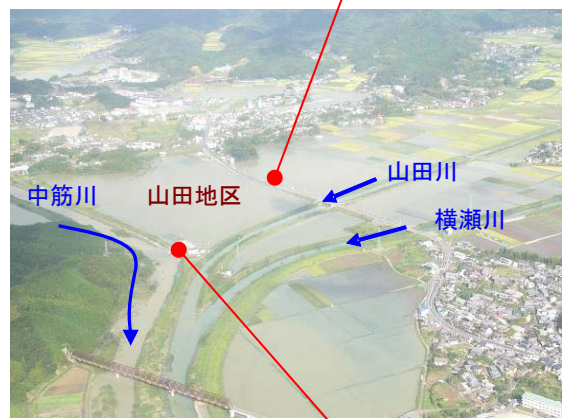
※平成11年4月より中筋川ダム運用開始。

中筋川における近年の洪水被害状況②

○平成 16 年 10 月 20 日(台風 23 号)



○平成 17 年 9 月 6 日(台風 14 号)



(2) 渇水被害

横瀬川では、8箇所の取水堰によりかんがい用水を取水しており、少雨状態が続くと、河川が干上がり、瀬切れ状態が起きています。

平成7年は、平成6年列島渇水の余波を受け、平成7年初頭から春にかけて渇水が発生したのに加え、その後も降水量が少なかったことなどにより、8月以降も、関東から九州にかけての広い範囲で渇水に見舞われました。



渇水時の横瀬川 ヒエダ口橋付近



平常時の横瀬川 ヒエダ口橋付近

横瀬川 平成7年渇水時の河川被害状況

3.1.3 災害発生危険度の危険度

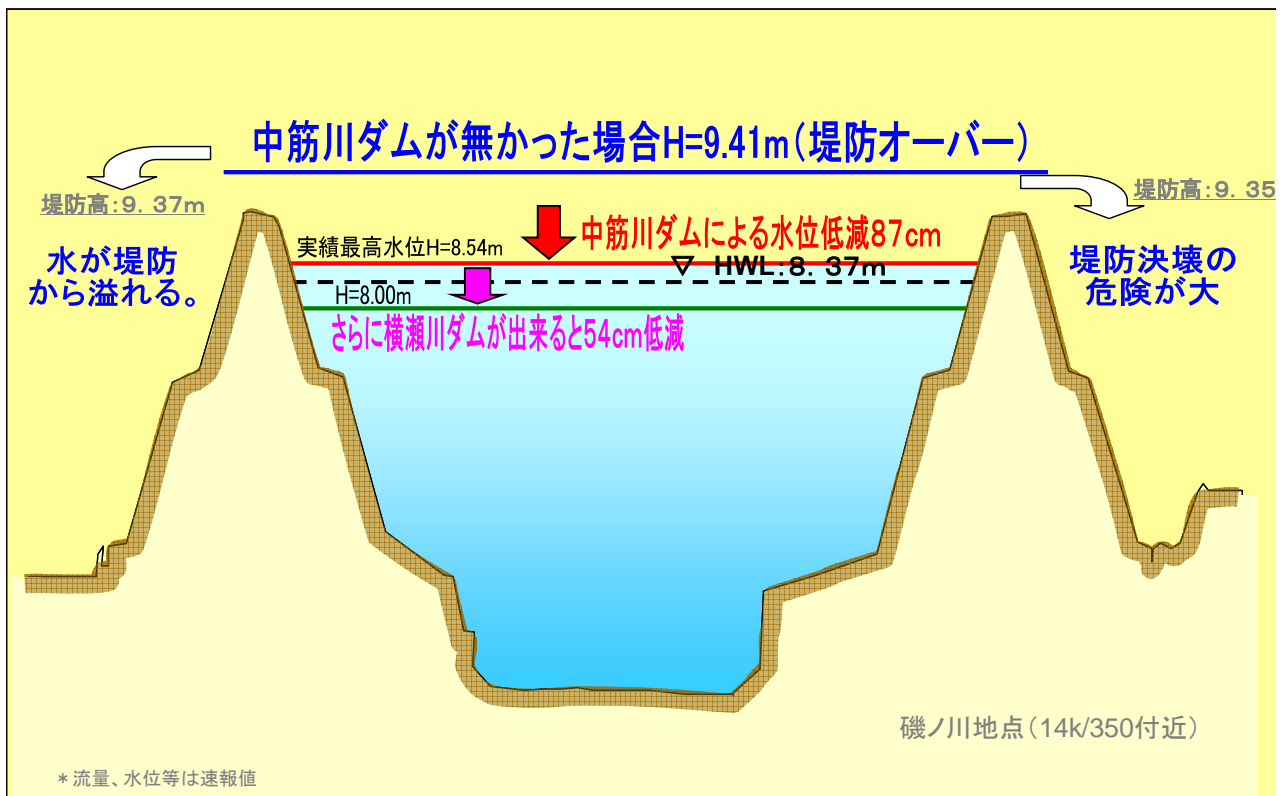
平成 13 年 12 月に中筋川河川整備計画が策定されました。横瀬川ダムは既設中筋川ダムとともにこの河川整備計画における洪水調節施設としての役割を担っています。

平成 16 年台風 23 号による洪水では、中筋川ダムによって水位を約 90cm 低減し、堤防の決壊を回避しました。

横瀬川ダムができるとさらに水位低減が可能となります。

河川名	基準地点名	計画の目標となる降雨と確率規模	基本高水のピーク流量 (m^3/s)	横瀬川ダムと既設中筋川ダムによる調節流量 (m^3/s)	河道への配分流量 (m^3/s)	現況流下能力 (m^3/s)
中筋川	磯ノ川	1/100	1,200	350	850	概ね 640

平成 16 年台風 23 号における洪水調節効果(イメージ図)



3.1.4 地域開発の状況

中筋川流域では、交通の整備、公共施設の整備、大型商業施設の進出等さまざまな開発が進んでいます。

○交通網

一般国道 56 号中村宿毛道路(高規格) 平成 14 年 9 月 (間 IC~平田 IC 間の供用開始)
土佐くろしお鉄道 平成 9 年 10 月 (宿毛線 宿毛~中村 間)



一般国道 56 号中村宿毛道路(高規格)



土佐くろしお鉄道(宿毛線)

○公共施設

県立幡多けんみん病院 平成 11 年 3 月完成
宿毛市総合運動公園 平成 13 年 10 月完成



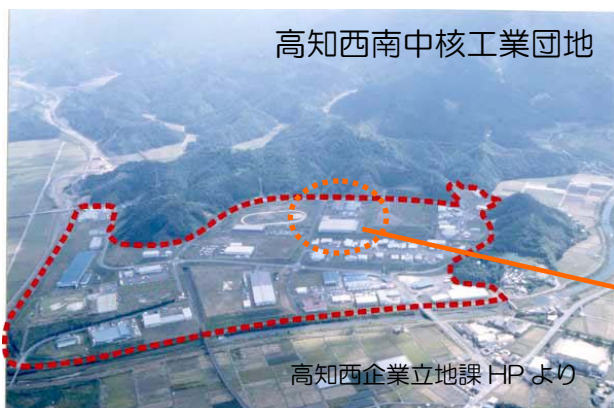
県立幡多けんみん病院



宿毛市総合運動公園

○工業団地

高知西南中核工業団地 平成 3 年 10 月分譲完了 県内外 21 社、1 グループ(25 社)



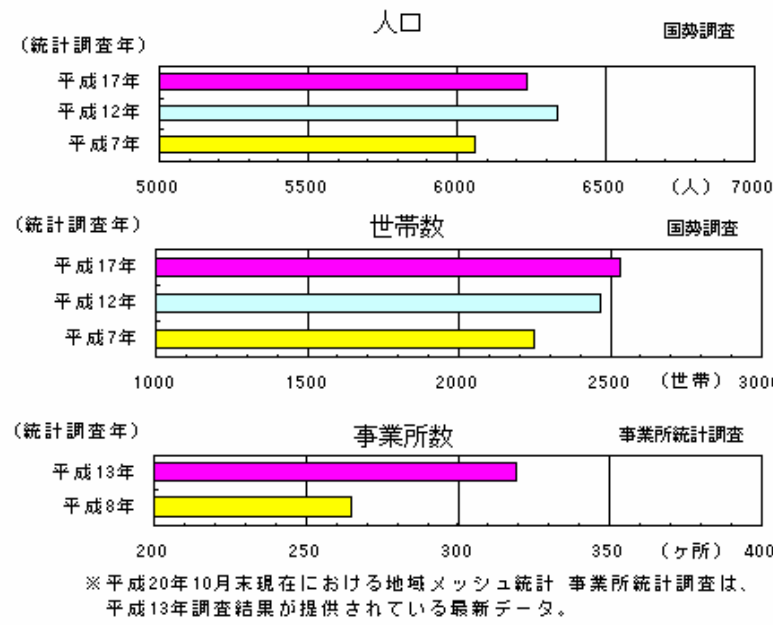
高知西南中核工業団地

高知西企業立地課 HP より

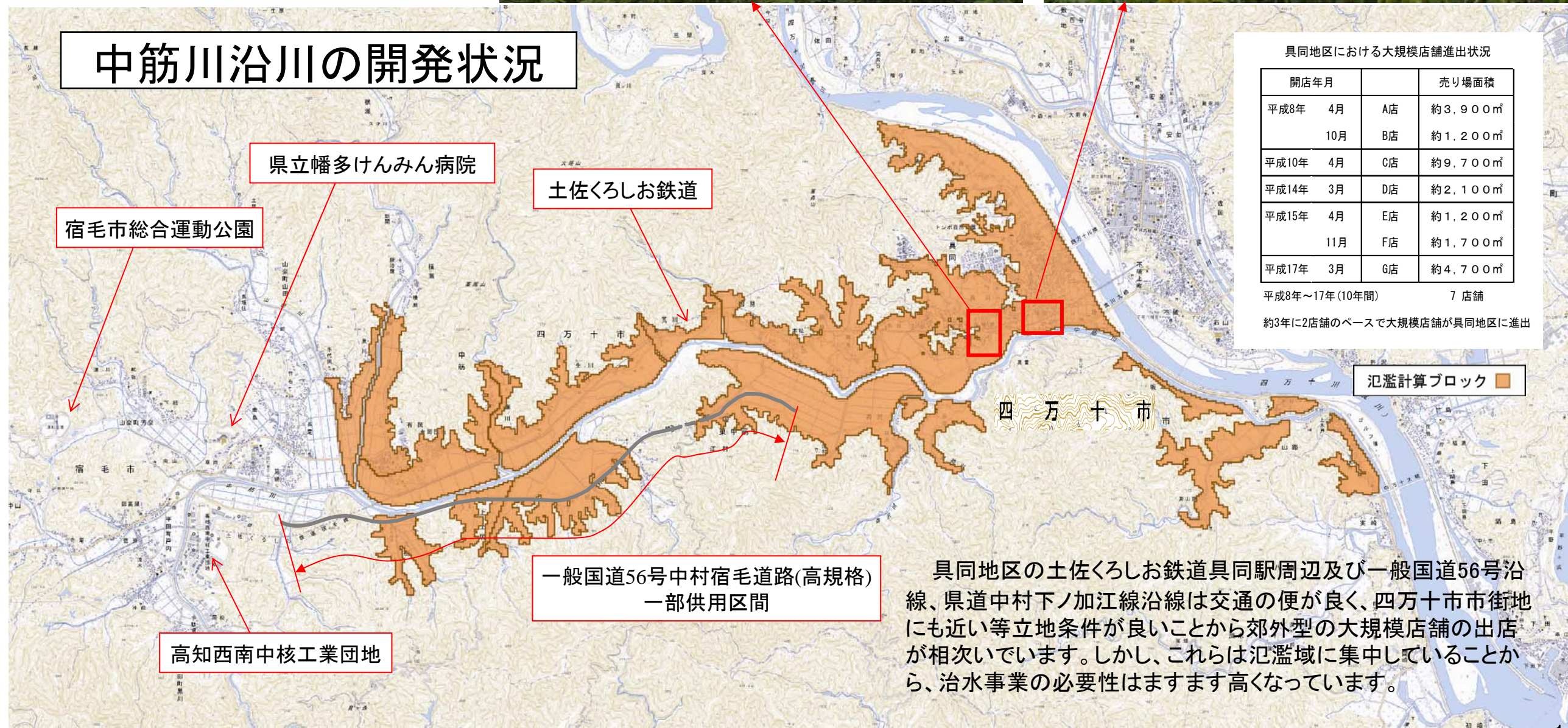


平成 2 年分譲の地元企業(機会機器製造)

土佐くろしお鉄道～一般国道56号～県道中村下ノ加江線の開発状況



中筋川沿川の開発状況



具同地区の土佐くろしお鉄道具同駅周辺及び一般国道56号沿線、県道中村下ノ加江線沿線は交通の便が良く、四万十市市街地にも近い等立地条件が良いことから郊外型の大規模店舗の出店が相次いでいます。しかし、これらは氾濫域に集中していることから、治水事業の必要性はますます高くなっています。

3.1.5 関連事業との整合および地域の協力体制

- ・西部統合簡易水道事業(四万十市)
四万十市に対して1日最大800m³を供給します。



水道供給区域図



水道取水施設

○ 水道事業の主な経緯

平成 7 年 3 月 横瀬川ダムを水源とする「西部統合簡易水道事業
(四万十市)」が認可

(平成 14 年 6 月 横瀬川ダムの建設に関する基本計画公示)

平成 19 年 4 月 暫定給水開始 左岸地区

平成 19 年 10 月 西部統合簡易水道事業再評価【事業継続】

(平成 20 年 7 月 横瀬川ダムの建設に関する基本計画 [変更] 公示)

平成 28 年 4 月 供用開始

・地域の協力体制

横瀬川ダム建設促進期成同盟会等において、四万十市、宿毛市をはじめ、関係団体等から横瀬川ダムの建設の促進と早期完成を要望されています。

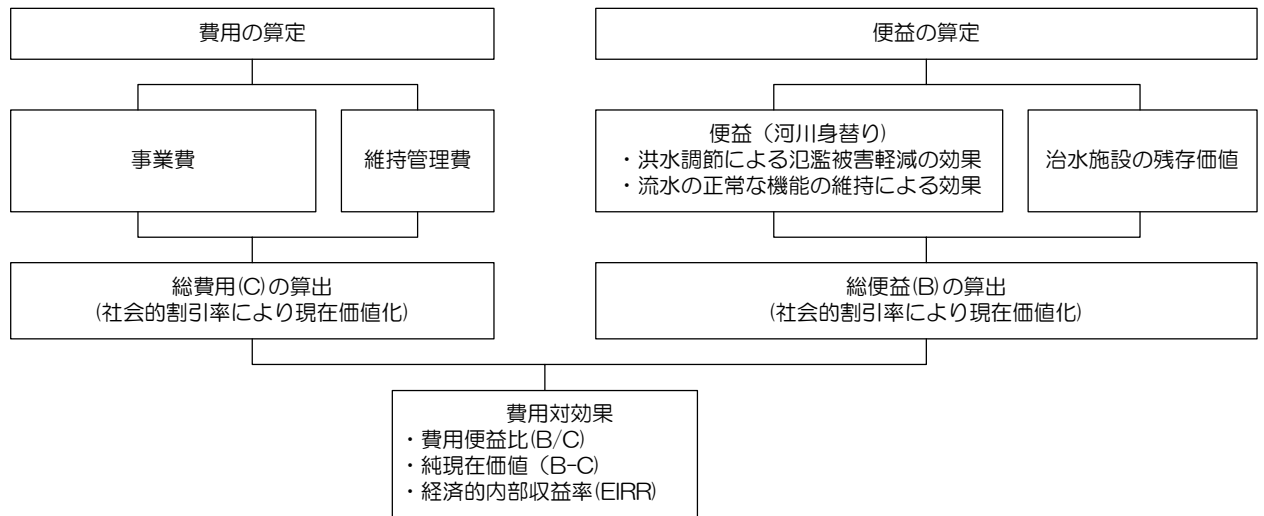
また、水没家屋(8戸)の移転も完了し、現在(平成20年11月)、面積比で約86%の用地買収が完了しています。

漁業補償についても平成20年9月に契約締結済みです。

3.2 事業の投資効果

3.2.1 費用対効果分析

◇費用対便益の考え方



◇横瀬川ダム建設事業の費用対効果算定期間

評価基準年度 平成 20 年度

整備期間 平成 2 年～平成 27 年

評価対象期間 整備期間完了後 50 年間

◇横瀬川ダム建設事業の総費用

①総事業費 400 億円

残事業費 289 億円(H19 年度末)

②河川身替り事業費 397 億円(治水 210 億円、不特定 187 億円)

③総費用【C】 -----社会的割引率(4%)により現在価値化

事業費 c_1	※維持管理費 c_2	総費用 $C(=c_1+c_2)$
391.07 億円	46.36 億円	437.43 億円 ≒437 億円

※維持管理費は、同規模、同管理設備のダムを参考に算出

◇横瀬川ダム建設事業の総便益

総便益【B】 -----社会的割引率(4%)により現在価値化

便益(河川身替り) b_1	治水施設の残存価値 b_2	総便益 $B(=b_1+b_2)$
622.84 億円	13.72 億円	636.56 億円 ≒637 億円

◆費用便益比(B/C) 637 億円/437 億円=1.46

◆純現在価値(B-C) 637 億円-437 億円=200 億円

◆経済的内部収益率 (EIRR) 8.2 %

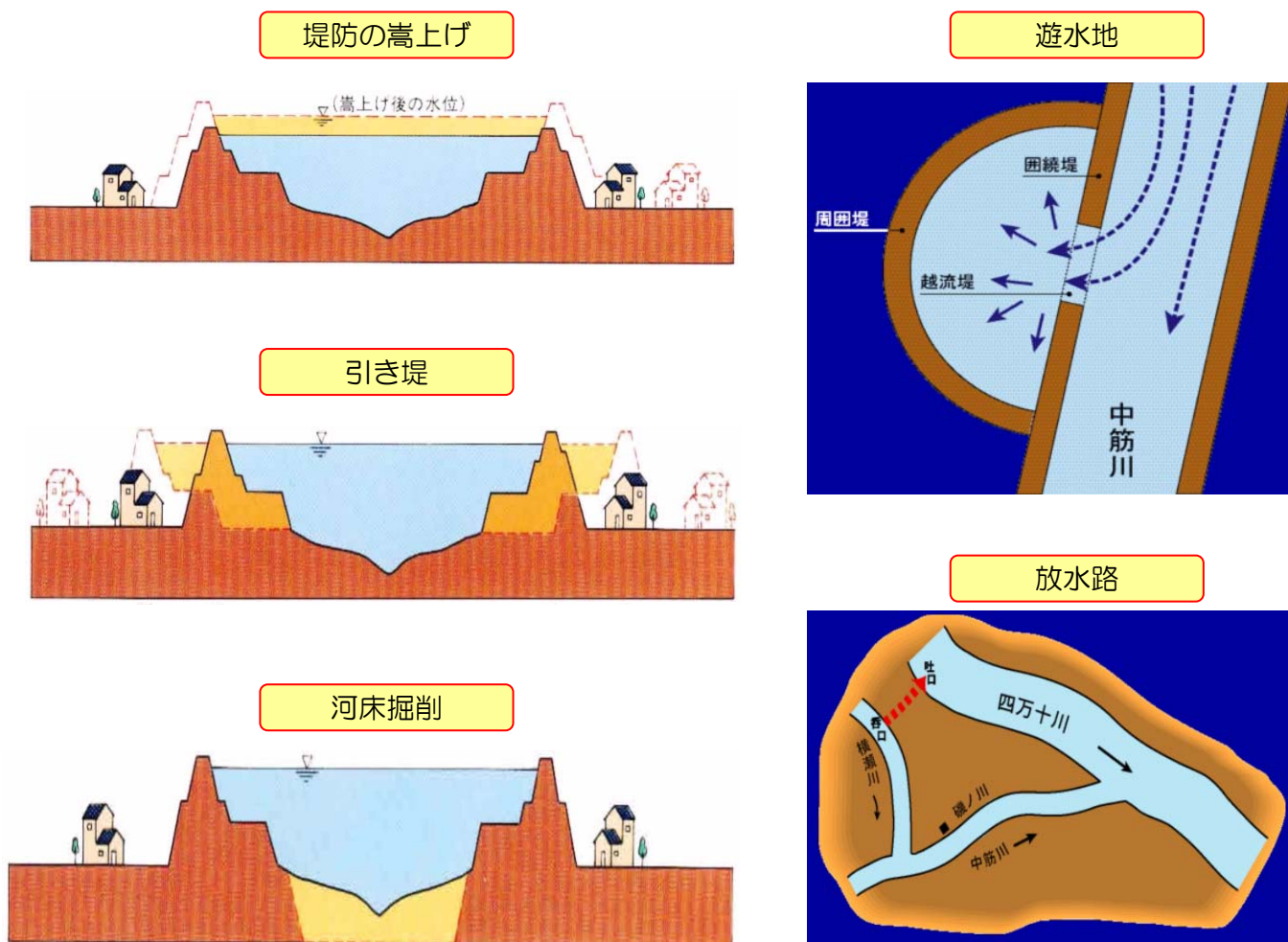
3.2.2 代替案の可能性の検討

平成13年12月に策定された「中筋川河川整備計画」では、横瀬川ダムの代替案として河積の拡大(堤防の嵩上げ、引き堤、河床掘削)、遊水地、放水路による対策が検討され、経済性、社会的影響、自然環境への影響、利水面等から総合的に評価するとともに、河道の洪水流下能力を踏まえ、基本高水流量を既設中筋川ダムおよび横瀬川ダム建設と河道により対応することとしています。

整備計画策定以降、流域内の開発が進んでいることを考慮すれば、今回の評価時点においてもダム案以外は、整備計画策定当時より社会的影響は小さくなっていると考えられます。また、経済性、自然環境への影響については整備計画策定時とほとんど変化はありません。

したがって、今回の評価時点においても、現計画の優位性は変わりません。

代替案イメージ図



4.事業の進捗状況と 今後のスケジュール

地域住民の安全・安心な暮らしの提供を図るため、平成2年度より事業に着手し、これまでダムサイトの地質調査、地形測量、水理調査及び環境調査等を実施しています。平成19年度には、事業用地の取得等の促進、ダム本体等の設計を行うとともに工事用道路、付替道路を実施しました。平成20年度は、事業用地の取得等の促進、ダム本体及び関連設備等の設計を行うとともに、工事用道路、付替道路を実施しています。

横瀬川ダムの主な経緯

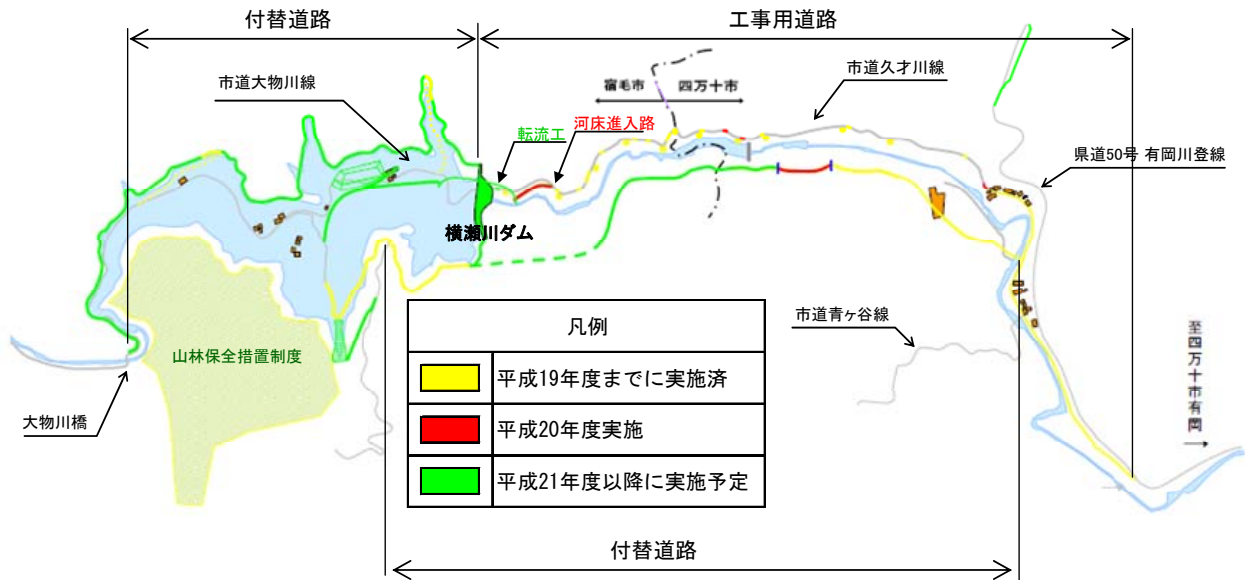
平成2年	6月	事業着手
平成8年	7月	横瀬川ダム環境委員会発足 (平成8年度4回、平成13年度1回、平成19年度1回、平成20年度1回開催)
平成10年	8月	ダム事業の総点検
平成13年	12月	中筋川河川整備計画策定 (横瀬川ダムが位置付けられる) 横瀬川ダム事業再評価【事業継続】
平成14年	6月	横瀬川ダム基本計画公示
平成15年	4月	工事用及び付替え道路建設工事着手
平成16年	2月	用地買収開始
平成16年	3月	横瀬川ダム建設事業に伴う山林保全措置制度に係る基本協定書締結
平成18年	12月	横瀬川ダム事業再評価【事業継続】
平成20年	7月	横瀬川ダム基本計画(変更)公示
平成20年	9月	漁業補償の契約締結
平成20年	12月	横瀬川ダム事業再評価

<今後のスケジュール>

- ・ 仮排水トンネル工事 → ・ ダム本体掘削工事 →
- ・ 本体コンクリート打設 → ・ 試験湛水 → ・ 事業完了

＜事業の進捗状況＞

工事用道路及び付替え道路工事は平成15年度に着手し、平成19年度末時点で各々約66%、約20%の進捗率です。



5.コスト縮減の方策等

5.1 コスト縮減

ダム建設事業は、事業期間が長く、建設費用も膨大です。

横瀬川ダム建設事業では、より効率的なダム建設を行うために、山林保全措置制度の導入や側水路減勢方式の採用等、設計・計画段階から様々なコスト縮減に取り組んでいます。

○ 山林保全措置制度

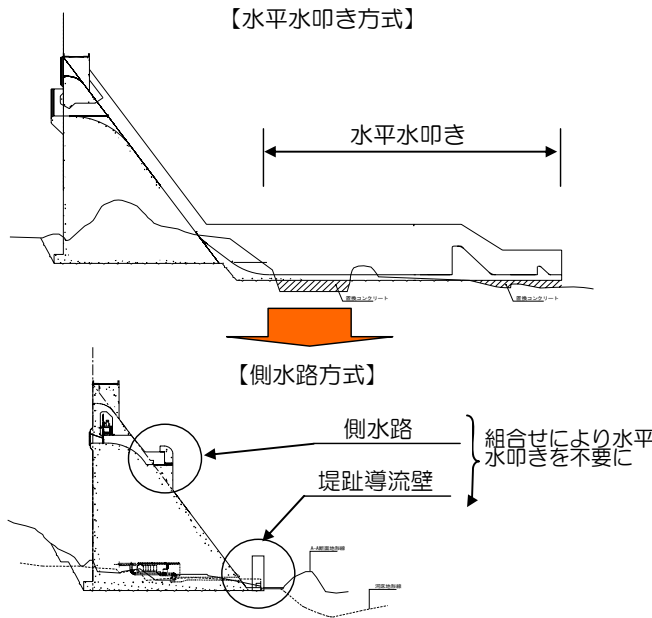
「山林保全措置制度」を活用し、従前の公共補償と比べ、建設事業費を削減しました(付替道路の施工が不要、全体工期の短縮)。

さらに、環境改変の減少や景観の保全にも寄与しています。



○ ダム形式(「側水路減勢方式」の採用)

ダム本体予定地の直下には、地元が信仰する滝や祠、シイ・カシ天然生林の貴重な生息地があります。これらの環境を保全するため、堤体下流に水平水叩きを設けない特殊な減勢方式「側水路減勢方式」を採用しました。これにより、本体コンクリート量、掘削量等を削減しました。



○ 購入骨材

原石山による骨材採取から原石山に頼らない施工計画(購入骨材方式)にすることにより、原石山の開発に係る費用を縮減し、コンクリート単価を削減しました。さらに、環境改変の減少や景観の保全にも寄与しています。



イメージ写真



○ その他

このほか、施設の設計段階、施工段階等で専門家の意見を聞きながら、さらなるコスト縮減に取り組んでいます。

5.2 ダム建設の進捗情報の公表

一般に、ダム建設中においては、事業の透明性確保の観点から、工事の進捗状況や事業工程を公表するなどアカウンタビリティのさらなる向上を図ることとしています。

横瀬川ダムにおいても、本体関連工事が本格化した際には、「かわら版」等の配布やホームページへの積極的な情報掲載などを行っていく予定です。



尾原ダムニュース 第25号

尾原ダム本体工事進捗状況

平成19年9月よりダム本体のコンクリート打設を行っています。約1億7千万m³（全体の約2.3%）、高さは一帯湖に比べて20mに達しています。

平成19年10月打設開始（約1億7千万m³）

平成20年10月現在（約2億3千万m³）

尾原の森から見た様子

比高写真

コンクリート打設機（クレーン付き）

本湖のバリエータ（コンクリート基礎の型枠）が湖底を築き上げ、湖底を固めています。型枠は重く、湖底の地盤が固まらなければなりません。型枠を打設しているときに、もしも揺れたら、壊れるかもしれません。

尾原ダム建設事業の見通し

主な工事	平成17年度 (3年前)	平成18年度 (2年前)	平成19年度 (1年前)	平成20年度 (今年度)	平成21年度 (1年後)	平成22年度 (2年後)	平成23年度 (ダム管理)
転流工	仮設水トンネル	永久トンネル					
ダム本体工事		一次掘削		二次掘削			
堤体工				コンクリート打設・基礎処理			
放流設備工				選取取水設備・利水放流設備の製作、搬付工事			
管理設備工				管理所 観測、警備設備など			
試験湛水							完成★(ダム管理のはじまり)
付替道路等工事	付替道路（国道314号、市道、町道、山林管理道）、工事用道路等の工事						
ダム周辺整備					管理所周辺整備など		

出典：国土交通省 斐伊川・神戸川総合開発工事事務所 HP

5.3 環境影響評価

横瀬川ダム建設による自然環境や生態系等への影響について、学識者等の意見を聞きながら、事業者として実施可能な保全措置等についてとりまとめを行っており、とりまとめた資料については公表します。

横瀬川ダム環境影響評価項目		
・ 大気環境	・ 水環境	・ 地形及び地質
・ 動物	・ 植物	・ 生態系
		・ 景観
・ 人と自然の触れ合いの活動の場		・ 廃棄物等

横瀬川ダム環境委員会開催経緯

- 平成20年 2月21日 第1回委員会開催
- 平成20年 10月15日 第2回委員会開催
- 平成20年 12月17日 第3回委員会開催

6. 今後の対応方針(案)

事業評価は、

- ・ 継続
- ・ 見直し継続
- ・ 中止

の3つの観点より今後の事業対応方針を決定することとしています。

横瀬川ダム建設事業は、

- ・ 中筋川河川整備計画で横瀬川ダム建設を位置付けています。
- ・ 平成16年台風23号洪水による被害など、近年は家屋浸水が2~3年に1回程度、農地浸水は毎年のように発生しています。
- ・ 整備計画策定以降、地域の開発(具同地区への大規模店舗出店等)も進み、当該事業の必要性はますます高まっています。
- ・ 共同事業者である四万十市の西部統合簡易水道事業は平成24年度に施設整備が完了する予定であり当該事業の緊急性は高いです。
- ・ 当該事業の推進にあたっては、地元自治体等から積極的な整備促進要望がされるなど地域の協力体制が整っています。
- ・ 費用対効果は1を超えており、また、ダム計画以外の代替案の優位性はありません。
- ・ 事業計画はコスト縮減や環境へ配慮した計画となっています。



以上より、引き続き事業を継続し、早期完成を目指す必要があります。

7.中筋川流域委員会での審議結果

平成20年12月1日、中筋川流域委員会(委員長：今井嘉彦 高知大学名誉教授)において「中筋川総合開発事業(横瀬川ダム)」の対応方針(案)を審議。

■中筋川流域委員会の審議結果

中筋川流域委員会での審議の結果「中筋川総合開発事業(横瀬川ダム)の対応方針(案)に対して下記の結論を得た。

中筋川流域委員会の結論

「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。

ただし、近年、浸水被害が頻発しており、中筋川の治水安全度の早期改善を図ると共に、共同事業者である四万十市西部統合簡易水道事業への影響が危惧されることから、平成27年度完成に向けた努力をすること。